

令和 6年 4月 27日  
於 マルトラ別館

## 松木島八幡社 第 19 回式年遷宮報告会

- 1 開会のことば
- 2 遷宮委員長あいさつ
- 3 宮司あいさつ
- 4 各委員会経過報告
  - 総務委員会
  - 庶務委員会
  - 会計委員会
  - 建設委員会
  - 上棟委員会
  - 御遷座委員会
- 5 質疑応答
- 6 閉会のことば

## 慰労会

- 1 開会のことば
- 2 乾杯
  - 会食 歓談
- 3 中締め

## 今回の御遷宮の反省を踏まえて、20年後に伝えたいこと

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会委員長 鈴木省悟

・遷宮委員会発足時には行事をしっかりと把握できていない状況であった。その状況下での各担当者決定には無理があったと思われる。

→行事をしっかりと把握してから担当者決定する事が大切である。

・町内会長、班長、宮総代は、遷宮経験者から選任するのが望ましい。各班で順番等は考慮せず、そのような人選をして欲しい。

・遷宮委員は、町内会長・宮総代経験者からだけ選出するのではなく、行事等を良く理解し、適材適所となる人を選出した方が良い。また、次回遷宮のことも考え若い人材も選出すべきである。

・遷宮委員を選出後、各行事の目的を前面に出し、全員に理解して貰う必要が有る。

・委員会の数を増やすか？ 委員会の中で更に分割するか？の対策が必要である。

・連絡網をしっかりとする。(直前の1週間は全員がグループLINE・電話等を短時間毎にチェックしなければならない)

・雨の日対策をもっと考えなければならなかった。種々の状況に対するシミュレーション不足であった。急な変更に対応できる体制を作る必要が有る。

・齋行日の23.24日が過ぎたから御遷宮が終わったのではなく、その後(残務処理?)も大切である。

・班長さんから「意見がコロコロ変わるから、分からない、やり難い」の意見が多いが、良い意見が出たからには変えなければならない。変えた意見をすぐに周知してもらう連絡網(正副委員長会・各委員会等)を整備しなければならない。

・各行事の責任者は突然の出来事に対応するため、特定の役割からフリーにしてその行事を統括した方が良い。

## 総務委員会の振り返り

総務委員長 桑山実

松木島八幡社第19回式年遷宮、皆様大変お疲れ様でした。

総務委員会は、広報・警備から映像・式典進行などを進めてきました。

「遷宮の風だより」は、遷宮委員会発足時から、回覧では不十分ということで松木島の皆さんに、毎月、ご遷宮に関する行事・スケジュールなどお知らせする目的で全戸配布が実施されました。あらためて第1報から読み返していただけると違った御遷宮が見えて来ると思います。

町内会ホームページも同じ目的で時流に沿っているということで立ち上がりました。インターネットではリアルタイムで広報できるというメリットがありますが、そもそも遷宮委員会で確定されるまで時間がかかる事が多く、はて、これって公表していいのか？と思う事も多かったように思います。検討中の事柄・文書もサイトで見られるというのが理想でしたが、今後の課題でしょう。一方LINEの活用はとてもうまくいったと思います。というかLINE無しは考えられなかったでしょう。

ホームページといえば、お稚児さんは受付当初から「詳しくはホームページで」と案内していたので、問い合わせもホームページにそれなりにあり、当日も行列中止の決定を受けて7:30には告知できましたし、800～1000あまりのアクセスがあったので一定の役割は果たせたとは思っています。

餅投げ・お稚児さんの警備関係で、一色幹部交番・西尾警察署交通課・地域総務課そして消防本部一色分署と相談・お願いに伺いました。それに加え警備としては、交通指導員・警備会社・地元住民の皆様の助け隊も加えた陣営でした。警察を含めお役所は心強いですが、それしか無く、一方、警備会社の方は今回急な行列中止にもかかわらず迅速に動いて私供を引っ張っていただけました。

警備の広報は、東部連合の回覧・松木島町内会の回覧・直接関係する班への回覧（野田地区は文書のポスティング）、予告立て看板、当日の案内看板の設置を行いました。

警備駐車場関係は総務委員会でかなり時間をかけ協議を重ねましたが、今回、餅投げの方は警備会社は予算の関係から外しており、お稚児さんの3000人規模のイベントも含め、今後は専門家の企画運営でないと回らないと考えるべきでしょう。

今回、20年前のいろいろな記録があったおかげで当初から進めることができました。しかしながら一方でそれに縛られすぎている面もあると思います。俺達は何をすればいい？という風潮があまりに強く20年前はどうだったという会話がとても多かったように思います。もう少し準備期間があれば俺達はこうやろうという議論できたかもしれません。一方で思い返せば、そもそも御遷宮なるものが今の時代に必要なのかあるいは出来るのかという議論から始まったと記憶しています。どうせ寄付金も集めるの大変だし若い者はみんな反対しているという意見がある中で、伝統文化を継承しながら松木島独自の叡智を現代に活かして次世代に託すという純粋な松木島保守の立場から委員長のもと遷宮委員会は動き出したと記憶しています。

総務委員会は、これから映像記録・記念冊子編纂など続きます。皆様のさらなるご協力をお願いします。

あらためて第19回式年遷宮という歴史の瞬間に立ち会えることができたことに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

## 庶務委員会の振り返り

令和6年4月

庶務委員会の主な役割は次のことです。

- ① 神殿の調度品や内装備品や擬宝珠などの装飾品の新調や修復
- ② 幟の新調と大幟のアルミポールの設置
- ③ 注連縄と社名額の新調・修復
- ④ 寄付者名札と掲示板の設置
- ⑤ 「遷宮の風だより」の発行
- ⑥ 会議記録と活動写真記録
- ⑦ 来賓案内と慰労会の手配
- ⑧ 放送設備の手配
- ⑨ 傷害保険・賠償責任保険への加入

⑤と⑥については、令和6年度から、総務委員会に移行しました。

### 〈良かった点〉

- 内装備品や幟などたくさんの物納寄付をいただき、備品や幟や注連縄など新調・修復して遷宮を迎えることができた。
- 「遷宮の風だより」を令和4年8月から計画的に発行することができた。
- 庶務委員会としては、各委員が役割を分担して、それぞれが責任をもって役割を進めることができた。
- 幣饌供進の儀の進行を若手にやってもらうことができた。

### 〈改善すること〉

- 調度品や内装備品など予算を考慮して、最小限に抑えたが、遷宮を迎えるにあたって、新調や修復が欠かせない物がある。物納のリストも少なめに抑えてしまったが、必要なもの全てを物納寄付のリストに上げて、より一層物納に協力してもらえたら良かった。
- 各委員会の役割分担について、どこの委員会がどこまでやるのかが曖昧だったこと。

### 〈伝え残しておきたいこと〉

- 今回、ホームページの内容や各委員会の記録、担当したことを文書や写真データとして整理し、残しておく。
- データだけでなく、プリントし紙の資料としても残しておく。

# 会計委員会の振り返り

令和6年4月

会計委員会の主な役割は次のことです。

19回松木島八幡社式年遷宮委員会寄付金納付方法について

① 農協で町内会費を引落しされている方

一括納付 町内会費の引落としと合算で納付

令和4年9月 令和5年3月 令和5年9月

上記3回の引落日より1回を選択して下さい

分割納付 (1) 農協より毎月定額引落とし

令和4年7月から令和5年9月の15回以内で引落とし納付

(例) 毎月1万円×15回(令和5年9月15万円納付完了)

(2) 3回分割で納付

町内会費の引落としと合算で納付

令和4年9月 令和5年3月 令和5年9月

上記3回の引落日より町内会費と合算で引落としします。

② 農協で町内会費を引落しされていない方

一括納付 各自の金融機関より農協の御遷宮の口座に振込みをする

以上の方法にて寄付金を集めました。

## 活動内容

- ① 班別寄付金の集計
- ② 玉垣の寄進募集と集計
- ③ 松木島町外の事業者へ寄付金の勧誘
- ④ 各委員会へ予算分配
- ⑤ 御遷宮にかかった各委員会の収支報告書の精査
- ⑥ 第19回松木島八幡社式年遷宮の決算書の作成

## 良かった点

寄付金の集め方で町民の選択しを増やしたこと

松木島町外から寄付金を予定以上に集めたこと

全ての事業が予算内で出来たこと

## 反省点と今後のために

当初の全体予算は約95百万円の寄付金を集める目標に約10百万足りなかったこと

近年の物価上昇の影響を受け約20パーセント価格が高騰し予定した以上に費用がかかったこと

松木島町外の寄付金依頼対象者を増やせたこと

約2年間で寄付金を集めました、あまりにも期間が短かく最低5年は必要だと思いました。

# 建設委員会振り返り

建設委員長 鈴木良明

我々建設委員会は当初、土塀の解体・本殿の銅板伏換え工事・拝殿のあく洗い工事・神楽殿の外壁の張替工事等、多数の修復工事を計画致しました。

時節柄予算も厳しく、全ての工事を業者任せに出来ないと思い、建設委員会のメンバーに無理を言って、自分たちで出来る事は自分たちでやる事にしました。

今回選ばれた建設委員会のメンバーは、建設関係の仕事に従事している人が多数で、体を動かす事には慣れていたので、作業もスムーズに進みました。

修復工事も工期的に余裕もあり、施工業者間の工程が重なることも無く、令和5年の12月には事故もなく、無事に完成いたしました。

これもひとえに、関係者の方々、各業者の方々、そして松木島住民の方々や氏神様のお陰とっております。皆様のご協力誠に有り難うございました。

そして3月23・24日の松木島八幡社第19回式年遷宮を無事に迎えることができ、雨には降られましたが、満足感いっぱいです。この重大な役目に携われたことに感謝しております。

## 上棟委員会の歩み

上棟委員長 平井勝美

### 1 上棟祭について

2年前、上棟委員長に就任したが上棟祭という行事は何をするのか検討がつかなかった。20年前の第18回式年御遷宮記念誌をみても、神事の言葉や漢字に悩まされ、意味が分からなかったが、上棟委員会を立ち上げ、石川勝志さんや深見隆之さんを中心とする上棟委員会の委員さんのご尽力もあり上棟祭の道具作りや備品作りの計画、上棟祭の進行内容の企画立案ができた。そして無事に上棟祭を乗り越えることができた。また、3月23日土曜日は大雨となったが、千間町内会や生田町内会からテントを借りることができ、無事に行えたことは良かったと思っている。

### 2 木遣り委員の選出について

各班の班長からの「木遣り委員は集まるだろうか？」の声を聞いて、大変不安ではあったが、各班3人以上の木遣りを希望する人を集めていただき、40数名の木遣り委員を集められた。ひとえに、班長さん達の多大なご尽力のおかげだと感謝している。

木遣り委員の中には4名ほど全練習日に参加していただいた方もみえ、本当に頭が下がるほどうれしかった。木遣り委員を集めることは大変なことなので次回の御遷宮に向けては早期から委員集めをしたほうがよいと思われる。

### 3 餅投げについて

最初のころは「誰も俵を造る人がいないから餅を入れる袋は段ボールでいいのではないか」と顧問さんから助言を受けた。「段ボールは味気ないから他の物に入れたらいいのではないか」とか「ウナギを入れるどうまんでは」との意見も出たが、「餅を入れる俵を作しましょう。」という声があがり、俵を作ることに決った。

班長さん達のご努力で3ヶ月かかって俵を造ることができ、俵に入れる檜の葉も取りに行き各班に入れることができた。皆様の協力のおかげだと思う。

3月23日土曜日は一日中雨でしたが、餅に景品シールを張ったおかげで餅投げは大賑わいで大成功をおさめた。これも鈴木俊幸さんを中心とする上棟委員の皆さんのおかげだと感謝している。

### 4 その他

交通指導、駐車場、安全面等も配慮し、皆様の協力や援助のおかげでなんとか上棟委員会は乗り切ることができたと思っています。本当にありがとうございました。

## 松木島八幡社第19回式年遷宮 御遷座委員会担当事業の振り返りと課題

### 1 祭事について

○本委員会が担当した主な祭事は就任奉告祭、仮殿遷座祭、新殿祭、本殿遷座祭、幣饌供進の儀、退任奉告祭の6つであり、御遷宮事業の根幹に関わるものが多い。今回、第19回目（初回が1555年）が斎行されたことになる。事業の目的、事業実施にあたっての目標・コンセプト等、立ち返るとしたら、この初回の御遷宮に想いや願いの「原点」があると思われる。前回の記録をもとに事業を踏襲すればよいものではない。

実際に取り組んでいくためのヒントとしては、令和4年1月11日付「松木島八幡社 ご遷宮の諸祭事について」において一般的な流れが①～⑩に亘って示されている。全体計画立案の際に見通しをもつための具体例として一層意識される必要がある。

特に今回、雨天のために奉祝行列は中止としたが、次回実施するのであれば、遷宮事業におけるこの行列の位置づけについて十分検討した方がよいと考える。

○二つの祭事の同日開催については、仮殿遷座祭終了時にもその課題を指摘している。遷宮委員や宮司等、関係各位ご多用の中、同日開催の方が負担感が少ないとの判断で行ってきたが、結果としては、参列者を長時間拘束することとなった。担当委員会にとっても十分な打合せ・役割分担が徹底しないまま祭事を迎えることがあった。特に式次第については、毎回丁寧な読み合わせと動きの確認が必要であり、時間の確保が難しかった。

経費の面でも、謝礼・手当、お供物等、同日開催のメリットはさほど見られなかった。また、報償費がかなりの割合を占めており、金額そのものが協議の対象となりにくいのであれば、次回からは他の科目での節約を考えたほうがよいと考える（特に食糧費）。

○御遷宮事業における委員会組織はキャリアの異なるメンバーによる臨時のものであり、課題を継続して丁寧に協議することが難しい。案やアイデアは複数出されて然るべきであるが、結果としては深まりが見られなかった。二年目に入り、他委員会との連絡・打合せ会が行われるようになったことで課題の幾つかが解決されることもあり、見通しがもてるようになった。

### 2 稚児行列について

○二つの祭事の同日開催については、上記の通り課題を指摘したところであるが、祭事+稚児行列も同様である。一日で行う行事は準備を含め、支援体制等から考えても一つの的を絞ることが適切と判断する。「ご遷宮の諸祭事について」の中にある稚児行列も本殿遷座祭終了後～幣饌供進の儀前間に記載されている。参列申込受付を町内会班長宅や金融機関への振り込みでなく八幡社社務所で行ったこと、稚児着付け会場を東部小学校一か所にしたこと、それに伴う交通整理の仕方の変更・計画の練り直し等、初めての試みでもあり、立案・打合せ・関連先への依頼、諸準備等、ほぼゼロからのスタートとなり、かなりの時間を要した。

○参列者は、最終的には884名（うち欠席11名）、小学校区在住者156名（うち松木島在住77名）であった。西尾市役所市民課による最近の行政区別・年齢別人口統計によっても想定内の人数であり、神社主催の稚児行列の関心の高さがよく理解できた。しかし、西尾市を中心に県下のみならず、他県からの申込もあったことを考えると、十分な配慮・対応が出来たとは言いがたい。

今回の状況を踏まえて次回のことを考えていくなれば、例えば、以下のような方法も考えることができると思われる（稚児行列実施の有無についての議論は別）。

ア 申込期日の7月中旬～8月中旬は松木島在住者・親戚等（校区在住者も可）を優先して受け、最初の数グループは連絡が取りやすいように配慮する。

イ 申込人数を750名（今回よりも約100名減）とすれば、臨時駐車場の確保は十分である。

ウ 当日は、稚児行列のみを実施して、時間的にも天候の変化にも柔軟に対応できるようにする。

○回覧板での諸連絡の案内は、家庭によっては目を通す人が限られており、十分に周知できていたとは思われない。同様に、町内会HPからの閲覧も現状ではまだ限られた方のみであり、更なるPRや画面構成上の工夫・細かなチェック等が必要である。



松木島八幡社第19回式年遷宮報告会 慰労会座席表 2024.4.27

禰 宜  
梶山 浩貴

宮司  
梶山佐和子

遷宮委員長  
鈴木 省悟

遷宮副委員会  
神谷 勲

前町内会長  
朝岡 洋之

町内会長  
川合 英夫

副町内会長  
渡邊 浩樹

粕谷 数直

相談役	東2 石川 芳行
前宮総代長	東3 加藤 満史
前副宮総代長	駅1 矢嶋 正文
宮総代長	西4 伴 保二
副宮総代長	東6 渡辺 一巳
御遷座委員	東1 神谷 雅俊
御遷座委員	西5 渡辺 博司
御遷座委員	西1 西方 和幸
御遷座委員	西2 青木 裕
木遣り保存会	駅1 松本 正人
チリカラ保存会	東2 中川 宏良
チリカラ保存会	西2 青木 正行

建設委員会	西3 尾崎 克己
建設委員会	東1 平田 正樹
建設委員会	駅1 荒井 映治
建設委員会	西1 水城 則彰
建設委員会	西3 磯貝 朋昭
建設委員会	駅2 高須 邦彦
上棟副委員長	西5 伴 孝和
上棟委員会	東1 廣瀬 稔幸
上棟委員会	東4 深見 隆之
上棟委員会	西5 鈴木 俊幸
上棟委員会	駅2 石川 勝志
交通指導員	東6 深見 巖

会計副委員長	東3 深見 敏
会計委員会	東5 渡辺 浩資
会計委員会	東2 渡邊 勝行
会計委員会	駅1 近藤 正弘
会計委員会	西1 鈴木 義春
会計委員会	西3 朝岡 得二
庶務副委員長	駅2 石川 裕之
庶務副委員会	東5 石川 久男
庶務委員会	西4 山口 秀男
庶務委員会	東1 深見 俊之
庶務委員会	東3 鶴殿 武良
庶務委員会	西5 伴 雅樹
庶務委員会	東2 中川 康

総務委員長	東1 桑山 実
庶務委員長	西1 青木 安男
会計委員長	西1 竹内 久善
建設委員長	東6 鈴木 良明
上棟委員長	東6 平井 勝美
総務副委員長	西3 徳倉 則夫
総務委員会	東3 井野 幸男
総務委員会	西1 鈴木 三昭
総務委員会	西4 杉山 豊
総務委員会	東5 渡邊 健二
総務委員会	西4 伴 千尋
総務委員会	西6 村田 義之